



五松園之序

詠諧番曲也五松園序

九名公之於詠諧也險如

舞女走竿活如市兒弄丸

自然寫其風景而不少蒼權

設也無也意也之詠



杜甫太白之作、亦是發于
 性情而已論其雅境則誹
 諧何有理趣之別乎哉
 元祿二己巳春初旬

真珠菴主識

誹諧卷近童目錄

- 一 あり付れ仕振
- 一 面八句仕事
- 一 發句切字の事
- 一 尚流發句の事
- 一 面八句仕事
- 一 表月夜の事
- 一 表仙の仕振
- 一 他十代の仕振

- 一 魚の羽糸糸袂袂秋秋遠晴 云云傷
- 一 去リ煙のくろ
- 一 句去りのくろ
- 一 人瑞衣雨袂用
- 一 白紙のくろ
- 一 糸分の羽
- 釘屑目録
- 一 尚ほに季に羽
- 一 叙

目録終

池沼番匠童

凡池沼ハ是れ舟乃一秋みりて若^{ツカ}助守
 哉宗鑑ありてくろの良感老人は道を
 あくくあゆむやわ式ふみくろの秋^{ツカ}座
 よわり池沼世ふ世ふありり中此難波
 の梅春ををせりし風折あつてくろ
 真ありくろ宗園風くろく雲くろく
 やしゆりぬくろ存あつてくろ風折あつて詩

乃下々声よよの世又ハ文字所より
朽く替りゆれも好まじかむや
ぬ道乃高虎と云むらる所
代は学れ九十九の付合
付あてますして其一
わらひ成るに付して
作をほまきしる所
甘り山新より
ぬけはよ又
かむ

時くは落ふり
とも天附信
古代の事
と云ふ
西ハ高虎
とわらひ
高虎
男前
あふ

と一に二三の山にありて人の書法
及して師とよき人ありてありて
ま一門をありて人なりとあり
てくらりり乃してまねく人なり
てまよありていふ人なりとあり
とよきありてありてありてあり
月と書きしとありてとありてあり
そと傍補してしりひりありて
ありてありてありてありてあり

○あやう付るる

直流中は苗流の付るる
のあやうと付るるありてありて
他とありて

^{あやう}秋の露らしめ馬持の家

^{付る}月あも二人の慕はじあり

是古代の付るるありてありてあり
ありてありてありてあり

又中は家因の何

とすのあひまの松の尻

是も持来のいひて付て
とお泰よとして
あらうとらうは松の尻は金儲の
しらふらう

又瀬の瀬式付とらふ

着る衣は火焼らん松がらう

是も持来のいひて付て
あは焼くまはけ

又

大橋と小橋のありは

是も持来のいひて付て
とらうの持のあは
又少切考めて付る時

又科の月めは

とちてするるとるくとせり今も案をたて
するえはくひのあむ附とあむと付句
とひよつよしつる神をるつとむ
のひよつよしつる神をるつとむ
凡の教句し

○ 教句切字の事

やそ哉たりたりちりしじふち
つじくあそつらつれらふしそ

りそふつらつれらふしそ
あふふ月あふ

○ 案をたてする教句

白妙やうしけりるあむあむ
塔三重のたふ極くつるあむ
池の勇た橋かひゆつ外
案をたてする教句

○ 夕城とあつらふ夜句

かろ^カき^ゴく^クり^リえ^エ淡^淡海^海水^水の^の人^人塩^塩石^石如^如巢^巢

雲^雲の^の里^里男^男如^如勢^勢よ^よむ^む夕^夕ア^ア水^水斐^斐

緞^緞妻^妻や^や二^二中^中と^とよ^よむ^むじ^じ小^小松^松糸^糸

蝶^蝶後^後て^てる^る色^色顔^顔糸^糸じ^じう^う板^板箱^箱成^成

夕^夕津^津に^につ^ついて^{いて}そ^その^のつ^つら^ら風^風

情^情れ^れり^りら^らら^らの^の夜^夜句^句

古^古池^池や^や煙^煙飛^飛び^びあ^あの^の名^名 芭蕉

名^名の^の付^付ぬ^ぬあ^あか^かし^しゆ^ゆ一^一山^山橋^橋 湖春

夜^夜を^をけ^けし^しゆ^ゆら^らの^の若^若花^花の^の歌^歌 夕花

三^三春^春野^野の^の竹^竹橋^橋花^花を^をあ^あら^らり^り 斐

け^け朝^朝の^の上^上を^をあ^あら^らの^のま^まも^もす^すく^くあ^あ

け^け若^若初^初心^心の^のう^うら^らは^はぬ^ぬむ^むの^のう^う

夕^夕花^花句^句の^のま^まあり

右二紙の神とらんひのヤノ

一賜

左流の連交のてく神さるく
撥あれも今の大概あはる
えあれら又京氣してわらひ
てふしこよひてふま又
ひあれも神はあはるも
すまあれりてはあはる
一同じく約字のあはる

木の何さよてくわあはる

一才三てとああ

ららんとあああああ
まかひせあがあ一回
級とていへてああ
ああああああああ
ああああああああ
ああああああああ

よすもゆゑ一まゐりかゝるカスミ長閑さ
らくおびのルヒ終りたる二月と
用り抱く夏秋冬とも数ツキあ
板付らうすくた一句のくはた
くおびくあさうくはた保か
の流ウ之駒字とあおりの守三上
よのよよすのあねと初心
のうらち中ウラチは後ウラチはあぶら

さへいふもあはれいづの
らあはれあはれあはれあはれ
一四あり古作かにもちりあはれありく
とすら流也付あはれあはれ
一句すくくくくくくくくく
とめて後くもあはれあはれ
よあはれあはれあはれあはれ
うらちいられくあはれあはれ

くくくくく

一七句ち 後句編才三正月多くいけら
月の考座^サ之秋の月之松又池
の舞の月もくくくくく

式を女 七句めを月あつてい
ゆれの家より月とくくくく
あれ月とらふくくくく

一四句^{キコト}坊^{コト}寺^{コト} 各々^{コト}市^{コト} 八^{コト}教^{コト} 越^{コト} 藤^{コト} 林^{コト}

後名^{コト} 下古^{コト} 人の名^{コト} 回^{コト} 名字^{コト} 回^{コト} 家^{コト}
神^{コト} 後^{コト} もも 熱^{コト} 火^{コト} 大^{コト} 黒^{コト} の^{コト} 紙^{コト}
加^{コト} け^{コト} の^{コト} 紙^{コト} 又^{コト} 後^{コト} 句^{コト} 紙^{コト}
又^{コト} 後^{コト} の^{コト} 名^{コト} 下^{コト} 古^{コト} の^{コト} 紙^{コト} も
す^{コト} 紙^{コト}

一五句^{コト} 十三句^{コト} ち^{コト} 紙^{コト} 越^{コト} の^{コト} 常^{コト} 座^{コト} と
す^{コト} 又^{コト} 十^{コト} 句^{コト} 七^{コト} 句^{コト} 月^{コト} 秋^{コト} の^{コト} 名^{コト} 月^{コト} 如^{コト}
と^{コト} 秋^{コト} の^{コト} 名^{コト} 月^{コト} 如^{コト} と^{コト} 月^{コト} 如^{コト} 月^{コト} 如^{コト}

中へ花をあふ秋の百月ひす
ひて三香きうたもさされより
あよ月出しくうらあしあふ
よひも花に月花ありのけと
花のうら十二句よりあよ花
あちあち花あふの句あしはま
あよにうらあしあふのけと
あちあち花あふの句あしはま

あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま

二万五千人あふの句あしはま
あちあち花あふの句あしはま

二の裏十四句物うら十四句の法口あ

三のう十四句 右口あ

一花抄のうら八句 月世ぬえ七句あ

花の常度之句ニホヒの世とてか

してニホヒ常度の花とて句よみ

席の撥サツと月を交やうはす

えぬらひの花の句をさへお

よみぬら

○あ仙乃仕ぬ

一あ仙ツキ無緒うらぬ夕ツキ向あ句

うら十二句名抄らりく十二

句うら六句うそ以上二十あ

句く月世の海うら十一句

あ花句又句あ月の常ニホヒ度ハ

うら六句よハ月日石釣の

名抄うらくと同あ

りあへ連が且之仙の
撰人の名は或二十一人あり
もよひて仕きてる例
よりて御書よもと名と
りすすて教^{かみ}年二十六
白ニすらあり

〇四十四ノ法

一四十四御書とらあり百約之法

と物おと名抄の
おましく二三のおとあり
家かえ百約の法あり

〇意の詞

意の詞。意の詞。意の詞。意の詞。意の詞。
おん意。字意。意の詞。意の詞。意の詞。

思
思の詞。思の詞。思の詞。思の詞。思の詞。

番

下わとま 中お母よみとれさば
河の紙はまよふべし

野鳥 多敷焼子。舞子。川行の鳥
うけま。舞子。うけま。好まう

親流 寺よみえ。西よみえ

娘 幼少のころは母あつたか
お婿 後建娘か

婿入 婿と申すはとらり
意よめり

女 ときかりも色ふあつて
て昔よりとれぬ意し 髪切女

嫁 うちけりあひ人 新後家

髪 髪は髪はあひわく髪は
髪は髪はあひわく髪は

髪 髪は髪はあひわく髪は
髪は髪はあひわく髪は

枕 枕はあひわく髪は
枕はあひわく髪は

あまのこゝろ

あまのこゝろをみるやんすするは
れた今こゝろを握てきりふ
とあまのこゝろにやんかれこゝろ
よあまのこゝろを能く離れ
しるあまのこゝろをよこす
物麻アサの葉は名の世アサのつる
むしあまのこゝろをよこす

あまのこゝろにほほめしきあま
あま

あまのこゝろ

あまのこゝろをよこす

あまのこゝろをよこす

あまのこゝろをよこす

あまのこゝろをよこす

鳥トリのつるむらじはかり

まていふまて人のものたひ

けくはあへくあまのつるむ
くツルムのあまのつるむ

○神独の詞

宮ミヤ 文井 古文 野ノ文 小文

社ヤシロ

古社。古法。枝の法。つるの法。あや
の法。野の法。社。法。末法

網アミ

鳥居トリイ 文井。文の文井。金の文井

甲子年の文井
つるむらじ

玉タマ壇ダン

野の玉壇。青の玉壇
まの玉壇。青の玉壇

一二三壇

かゝらむらじ 千の文のつるむらじ

彌敷 ミヤシキ 西條 ニシノエ 橋 ハシ 名 ナ の ノ たり タリ 橋 ハシ

祿宜 ロクギ ルキ 守 モリ 市 シ 子 コ 夫人 フイフ 法 ホウ 般 ハン 力 リキ 伊 イ 勢 セイ 出 デ 降 カ 持 チ 成 セイ

夫人。法般力。伊勢。出降。持成。孫子。おとこ子。孫徳山。宇勢川。は介。佐助。山田の。尾。白。三分。孫。後。つら。る。

おとこ子。孫徳山。宇勢川。は介。佐助。山田の。尾。白。三分。孫。後。つら。る。

御後 ミコノノサト 夜 ヨ 孫 ムコ 不 フ 戒 ケイ 也 ヤ 川 カハ や ヤ 川 カハ 也 ヤ

里 サト 孫 ムコ 樂 ガク 御 ミコ 湯 ユ 五 イ 糸 イト 色 イロ 也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ

御枕 ミコノシ 石 イシ 枕 シ 牙 キバ の ノ 孫 ムコ 孫 ムコ よ ヨ 加 カ へ ヘ へ ヘ へ ヘ

神 カミ 讓 シヤウ 榊 カサキ 名 ナ 所 トコロ 也 ヤ 也 ヤ

涉 セツ 注 シュ 連 レン 引 イン 一 ヒト 處 トコロ 也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ

○尺教の詞

寺

後寺。後寺。今も。寺。奥寺。里寺。山寺。松の奥寺。花の奥寺。刺の奥寺。古寺。龍谷寺。次寺。浄光寺。和歌。

いふ名不寺れ

堂

後堂。孝堂。古堂。新堂。カヤ堂。カヤ堂。カヤ堂。カヤ堂。

伽藍

伽藍。法堂。

塔

又堂。三堂。塔。洞の塔。九曲の塔。塔。塔。塔。塔。塔。

廻廊

廊下。方丈。くら。密教

奥院

坊。奥の坊。坊官。奥の坊。

出家。沙門。尼。沙弥。坊。

僧

老僧 若僧 禪僧 梵僧 平僧
美僧 方僧 越僧 与僧

寺ニナリ

寺中 寺家 塔中

門ニナリ

院家

國師 禪師

律師ニナリ

傍錄

長光

聖人

和尙

西堂ニナリ

東堂

齋座

松王

典主

書記

行堂

阿舍利

僧正

僧都

法印

法眼

挨拶

碩学

けり傍官宗有くよわりの
まろ人教之御備の者之官是
之つまひのくまわらま

○連盛之誦

若かりの。彼字あり。古く念。黒澤の社

世のくれ。世と擡ル。捨人。隠家。隠居
大方は多きを神人。病者の
多き。隠家。病人。病者の
は介りりくまへし。隠家
の事

○冠傷

化野

武帝の煨がらるる道古
の事古金冠を帝に

死の海

人横場

賊切

自害

かちの事。以て衣傷をんく。隠家
の事。以て衣傷をんく。隠家
の事。以て衣傷をんく。隠家

○去端の事

人衛

名宗本上竹原上本

二万寺

かくの事。以て。隠家
の事。以て。隠家

ひびおと虫おのりくろくしほ二
句まゝ身も朝向ふくふ所分
二句え 月日母おのりてふふ家
のろ二句え

○三句去リ

山嶺 水香 生花
神狹 足教 冠 平 常 待 不
サル 水香 生花
シシキ 足教 冠 平 常 待 不
ウツク 生花 冠 平 常 待 不

同字 旅神 夜分 時分 朝と朝
夕と夕

風凡 夜籠く 雲と中 極和とく
中とく
中とく

○六句去リ

解松 解髮 梳竹 衣 ぬ
燧 田 同字

奉行

林安。月付。石村

勢揃

大勢揃

俗

先んきく

嘆

人形

わ

から

くさくさ

のり

はんが

中

入てく入徳

大工

月夜

ト

月夜

六親

○居所の種に分

家

戸

門

二階

天井

窓

窓

窓

窓

窓

城

家

地

機

座

座

座

座

座

座

座

座

心

即

庵

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

居所用の分

庭

庭

庭

庭

庭

庭

庭

庭

庭

庭

庭

山類の分

之見也

の奥 **小野**

小野の奥 立田の奥

立田の奥 **小塩**

と

木曾

木曾 幼壯

山

難 人

猿

石橋

三

ヶ サキ

氷室

水邊 **神** の分

海

浦。瀨。津。渚。津。渚。津。

津。渚。津。

川

池

井

深。井。古。井。

く

水邊 **用** の分

水

流。水。

洞

伽

塩

波

氷

氷室

水邊 **用** 之分

卷五

六

船フネ 筏カサ 浮木ウキ 浮桶ウキバケ 塩屋シホヤ

流蛙カサガヒ 怪燒カサガヒ 魚網イサノミ

釣瓶ツルビン 下樋シモヒ 釣岳ツルノケ 海人ウミノヒト

蛸壘タコノイ 藻モの糸イト 和布ワフの糸イト

水邊ミヅノヘの分ワケ

浪ナミ 浦ウラの分ワケ 明石アカシ

浪ナミ 寺テラ 上ウヘ 橋ハシ 松マツ 橋ハシ

志シ 加カ 糸イト 松マツ 津ツ 清スガ 園ヰ

井イ 月ツキ の 町チヨウ 下シモ 野ノ 津ツ

三ミ 輪リン ケ 橋ハシ 杉スギ 橋ハシ

兆チヨウ 水邊ミヅノヘ 分ワケ

天津橋テンキンキョウ 野ノ の 津ツ 橋ハシ 横ヨコ 川カハ 三ミ 津ツ 川カハ

苗代

田のうげ

難波の

志

佐吉 大井

波の二

明

石の

松浦

わづら

白川の

秋の

月の多

布り

室の

雲の

海

岩屋

小田の

船

葎

九曲の

夜分れ

著

著

わづら

わづら

わづら

別の

列の

火

火

床

床

寝

寝

初子月

子日乃あまび

小松ひく

若菜

初子月

七草

あまび

すくろ

あまの

あまの

あまの

初寅系

あまの

あまの

卯杖

卯杖

朝勤行幸

あまの

あまの

あまの

官の

白馬節會

七日

菜摘河

あまの

言院

あまの

常陸

夷祭

縣名

あまの

男

あまの

あまの

春日祭

上申日 先未日 近江中なる勅

大系野祭

上野 古野の餅くらり

二月一日

軟の磁

ちりより

遺教院

佛

佛の別

二月のころ

佛

佛

佛の別

佛十

精

十六日

佛

佛

佛

佛

存る化してた

令

蛇

継尾の

白尾の

白羽を

鳥の巢

古巢

鳥の

轉

雛子

まきくす

鳥の

朝

未

良よ海と唇カ唇の名跡カ唇のまくれ

雲カ雀ヒひなりの雀カ雀カこ海鳥カ

蝶カ蝶カ蜂カ日巢カ蛇カ蛙カ雨カ雨カ日カ

いとカ糸カ糸カ糸カ猫カさうカ糸カ猫カ猫カ

初カ鮒カ鮒カ毛カ毛カ毛カ飯カ飯カ飯カ

あカみカ日カまカまカまカ田カ蝶カ日カ初カ雲カ

雷カ物カ稲カびカりカ月カ初カ様カ糸カ様カ

はカぎカ木カ苗カ代カ蔓カ日カ焼カ野カ山カとカ

芝カとカまカとカろカのカ蔭カ畑カ屋カとカ畑カとカ

苗カ代カあカはカ糸カ苗カ代カよカのカ毛カとカるカあカよカ

種カまカのカ麻カまカのカうカとカとカ佛カとカいカ月カ

出カ葉カ日カまカまカまカ枚カ菜カ日カ防カ風カ日カさカおカ

ただ後あきまを云 茶がうらまき

芋のとりえわから 蕨わらび 魚うなぎ

芦あし 薺なづな たんりたんり 筋すぢ 日ひ

菖あやむぎ 日ひ 辰あした 海うみ 雲うみ 紙し 著しよ 龍りゆう

〇三月 弥生 花見月 掃月 春打月 季春

巳み の月つき けこ ろろ へへ 上巳 水みづ もも おお てて へへ 下くだ 巳み 水みづ もも おお てて へへ 下くだ 巳み 水みづ もも おお てて へへ 下くだ

曲水まがみづ の宴えん 桃もも 祀まつり の節せつ 桃もも の花はな 茶ちや

春色はるいろ 日ひ 柳やなぎ 菖あやむぎ 日ひ 挑てん 花はな 金きん 溝みぞ 薬やく 師し 古ふる の家いえ

勝負しょうぶ のの 歩あし 武ぶ 皇み 亥ひ 祀まつり 祭まつり 林はやし 祇ぎ

木き 寒かむ 食く 冬ふゆ 至いた 百ひゃく 音ね 靴くつ

韃た のの 戲あそび 半はん 仙せん のの 戲あそび 定さだ 会かい のの 法はふ ああ とと 下くだ

任にん 者しや のの 塩しほ 子こ 俗しやく 土つち 佐さ のの 流なが 石いし 瓦わ 丸まる

他三月ニ石山祭ニ他ニ粟津祭ニ他ニ

水尾祭ニ九日ニ花ニ日日ニ比良ニ

祭ニ他ニ王生念佛ニ他ニ十日ニ日ニ傍ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

乃花のニ浅茅祭ニ十日ニ淨身ニ廿九ニ

桑子クワコ 熟桑摘ニヒクワツク 桃モモ 雌桃メモモ 雄桃オモモ

山椒ヤマカラ 山椒の熟ヤマカラノチカ 花の綿ハナノワタ 花乃ハナノ

雲クモ 花の雲ハナノクモ 雲の遊クモノユ 花の伎ハナノキ

花乃ハナノ 花乃ハナノ 花乃ハナノ 花乃ハナノ 花乃ハナノ

車クルマ 花軍ハナイクサ 花乃ハナノ 花乃ハナノ 花乃ハナノ

梨ナシ の花ハナ 梨の花ナシノハナ 梨の花ナシノハナ 梨の花ナシノハナ

柿カキ 柿カキ 柿カキ 柿カキ 柿カキ

醉サケ 醉サケ 醉サケ 醉サケ 醉サケ

蓮レン 蓮レン 蓮レン 蓮レン 蓮レン

小コ 小コ 小コ 小コ 小コ

馬ウマ 醉サケ 醉サケ 醉サケ 醉サケ

柿カキ の大オホ 柿カキ の大オホ 柿カキ の大オホ 柿カキ の大オホ

果

上

あまのせ 能わさ 統麻祭 一日或初

箱笥祭 初の午 山科祭 七日 松

尾祭 酉の 當麻祭 上方 瀧佛 八

仏舎舎 あな舎 日 名 祭 中乃 賀 茂

五香水 俗佛 千園子 能十 碓氷祭 能中乃

排 とる 柿天 孟友の 麦秋風

鑲秋 能 麦 秋 ぬるん茶 ちり茶

花王 牡丹の 芍薬 多いと茶 杜

茶 あ 茶 あ からあひ

八 能 射子 日 蕃薇 日 嬰岳粟花 午日

茶 あ 茶 あ 茶川 茶の 年

の茶 あ 茶 あ 茶 あ 茶 あ

茶

あり 柘榴乃花 花はつり香 びん
あり 花の香 さるのとり香 紫陽草
らの忠摘 忘る香 薔薇
下野の花 石菖 金銀花
蕙標の花 早松 薔薇 あり 菟
ごみの香 早松 薔薇 あり 菟

茄子 瓜 かりぎ 南天の
花 けしき 薔薇 生 胡椒 楸の
香 橘 とよ 山梔の香 多 梅
薔薇 枇杷 山椒 あり 行
子 子 苗 青田 田 茶 あり 香 粟
梅 梅 胡麻 あり 香 菟
以 五月 八月 あり

竹切竹切能能 次次作作系系 温温民民 今今 意意 好好 花花

ふふととおおふふ日日 腐腐茶茶のの蜜蜜ととああるる 今今ああるる

きき日日 夕夕立立 白白雨雨 駱駱雨雨 ああせせ 海海ののああらら

じじととふふ 麻麻 簞簞 抱抱 翁翁 作作如如 作作場場

翁翁のの 風風 蕙蕙 雲雲 此此 峯峯 廟廟 地地 石石 能能

ああくくろろうう ぬぬととこころろ ちちのの 茶茶 能能 川川

獨獨日日 煮煮 梅梅 ああぶぶりり 子子 桃桃日日 揚揚 梅梅日日 すす

りり日日 林林 檜檜日日 百百日日 石石 子子 石石 竹竹

蓮蓮 菰菰 能能 慈慈 菇菇 能能 河河 骨骨 日日 菱菱 のの 花花 日日

夫夫のの 体体 蒲蒲 のの 穂穂 能能 海海 松松 蘭蘭 とと 川川

他他 植植 六六 疾疾 線線 花花 日日 眼眼 皮皮 日日 後後 膏膏

花花 日日 様様 接接 子子 日日 玉玉 簪簪 日日 死死 日日 ささくくまま 人人 夢夢

さうりコト衣セタの具乞キ巧コウ真マの糸を乃梳シの

糸イモ芋イモの葉他タ送キ穴アナ拳ケン入イ八月

六道ロウダウ系ケイ九ク日ニチ建ケン仁ニ寺ジの南松マツ賣ウリ六月

孟ウ蘭ラン盆ボン中チュウ元ゲン共キョウ魂タマまの日ニチ

生ナマ乃ノ玉タマ他タ草クサの飯

灯トウ籠リョウ躍タク他タ送ソウ火カ日ニチ相ソウ撲ボク

浦ウラ八ハチ幡フタ安アン店テン既シ十五日ニチ今イマハ

あのひの茶チャ箱コブのひ霧キリ霧キリ箱コブ茶チャ

他タ他タ他タ物モノ日ニチ入イひ

鳳ホウ仙セン花カ木キ權ケン月ツキ令レイハ

草クサ花ハナ女メ

即ソク送ソウ牽ケン牛ウ花ハナ杖シヤウ系ケイ藤トウ乃ノ茶チャ

芭バ蕉ショウ小コ車クルマ花ハナ他タ

蘭ラン他タ花ハナ他タ

八辨

たのびの殺し能
繪掛 野目

小野糸

日 流う

さ松

土目 いちちるとちちの

ふはら 殺せ
舎能 十月

名月

多るき月 こといひの月
小正月 時 正月 十五

十月 正月の月

立まらの月 十七日

居まらの月 十八

あし 宿の月

十九

月乃乃

弓張月

狗牽

狗牽 正月の約 芳系 信徳
の 狗の約 牽 八十八日 月 一と生

七月 八甲 製 七月 八武 元 九月 八信 徳 の 中 月 乃

成る 十八日 八

初 延喜 系

秋の月 流

おひ 秋の宮

中宮のしるし
但 三月 月 乃 流

芙蓉

能 乃 芙
芙蓉草

芙蓉とよ六
蓮とよ

本 摩の花

樹花

葡萄 山

えん 花能

尾花

外 萱

花 系

檀 特 花能

志とん

紫 菫 花 乃

月 茶

露 茶 能

葛 葛

葛の根

草 比 乃 付

さびの西 為始 下 了 粟 籾 粟 蘇 色

麻 籾 籾 津 籾 小 籾 引 籾 引 籾

野 籾 八月 吹 初 籾 籾 籾 籾 籾

田 籾 籾 籾 籾 籾 籾 籾 籾

狐 籾 案 山 子 籾 籾 籾 籾 籾

なるこ ち ち ち ち ち ち ち ち ち

○九月

子月 卯月 小田 卯日

泉 備 古 舎 利 舎 八月 重 陽 宴 重 九

茶 菓 籾 籾 籾 籾 籾 籾 籾

籾 籾 貴 布 籾 籾 籾 籾 籾

大 宮 籾 大 付 籾 籾 籾 籾 籾

の 籾 籾 籾 籾 籾 籾 籾 籾

茸日了ぬ茸日るる日（文）日（文）日（文）日（文）
 いららる角茸日（文）皮（文）律（文）柳茸（文）松露（文）或（文）
 八（文）も（文）さ（文）し（文）稱（文）幾（文）所（文）ひ（文）つ（文）ら（文）田（文）
 り（文）の（文）あり（文）新（文）米（文）と（文）年（文）米（文）能（文）新（文）
 酒（文）日（文）子（文）多（文）鮎（文）日（文）尾（文）越（文）の（文）鴨（文）日（文）網（文）代（文）
 打（文）つ（文）露（文）重（文）和（文）露（文）時（文）肌（文）さ（文）び（文）ま（文）新（文）米（文）
 象（文）宅（文）衆（文）と（文）心（文）新（文）米（文）と（文）心（文）新（文）米（文）と（文）心（文）
 次（文）新（文）綿（文）綿（文）一（文）豆（文）秋（文）深（文）き（文）冬（文）近（文）
（文）

き冬とまの 古き衆 秋より
 後 宇道の秋 柳く秋 九月
 杖と 信者の神送 備日
 借ム 信者の神送 備日
 〇冬 元英 雅上天 帝
 律檀 選羽音
 〇 小妻 陽日 應
 能一日 能神出雲 能神出雲 五日
 能一日 能神出雲 能神出雲 五日
 能一日 能神出雲 能神出雲 五日

達キ北ノ忌日

十ノ夜ノ念子仏ツ

六日より十日

恵上美下忌日

下ケ元日

十五日より二十日

糸ノ後も用山忌日

大ツホ社ヤの日休日

休日

毒カ忌日

休日

休日

火ノ桶ノ祭日

祭日

初ハ時シ忌日

村ノ川ノ祭日

月ノの忌

祭日

祭日

竹ノ系日

本ノ枯ノ野ノ祭日

本ノ枯ノ野ノ祭日

祭日

菊ノ祭日

葛ノ祭日

枇ノ杷ノ祭日

山ノ茶ノ祭日

次ノ祭日

日ノ祭日

八の九日 薔日 蕎麥日 八日

莖葉 薔日 蕎麥日 初日

氷月 結氷 氷魚 氷魚

糸と 綱代 糸魚 糸魚

死鴨 糸魚 糸魚

糸魚 糸魚

鯉他 海魚 櫂日 炭竈

炭竈 綿 紙子他 蒲團 頸巾

余 紙子他 蒲團 頸巾

たんや日 雨 雪垣

十一月 霜月 初月

宮内 宮中 宮中

水の名他水ささる 冬と玉梅 水仙

花 全盛 葱 根深 梅 梅場の飛り

初音 梅 梅ありの梅 梅あつた 梅ささる

も 梅とあふ 梅ささる 梅ささる

ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

○十二月 月三多月 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

梅ささる 梅ささる 梅ささる 梅ささる

佛ふのち寺 依ル 依ル 上 下午 荷 荷 あ 依 三 依 三 日

うさき帝后 を の 儀 へ 肉 侍 西 の 律 楽

大 海 自 天 子 内 侍 之 和 布 列 の 律 子

大 徳 寺 御 山 忌 日 秋 宮 代 給 馬 大

相 の 長 伊 勢 所 宮 の 聖 人 追 儻 日 夜 下

小 綱 へ 給 きの と う ら の り あり ら ず と 別 歳 節 分 五 条 天 津 祭 能

ま あ り の 宝 船 ひ ら ぎ こ じ ひ や く ち う ち の 船

は る と と 命 う ち に 景 と う ひ 初 日

少 づ こ も う 大 海 日 春 と 瀨 と ま り の

ま ら ち き 正 月 の り 夕 夜 れ ち ち め 船

年 本 くる 煤 掃 能 節 季 の 日 ち ら

餅 つき 宅 敷 藪 日 宅 声 宅 作 居 日

終日 河豚汁 菜喰 宅

張日 年 日 年 日 曆 日 日

子樹 寒梅 臘梅 日 日 日 日

此 龍 孟 家 作 定 行 冬 箱 丸

元禄二巳巳年三月日

洛陽書林 新井彌兵衛版

何公の何と... 年より... 出... 行... 宝の... 行...

